

JMC
MADE BY JMC



会社説明会

株式会社JMC [証券コード : 5704]

2019. 8.28

© JMC Corporation All Rights Reserved.



会社名	株式会社 J M C
設立	1992年12月
資本金	779百万円
上場市場	東京証券取引所マザーズ (5704)
従業員数	117名 (2019年6月末日現在)
代表者	代表取締役社長兼CEO 渡邊 大知
本社所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 5 号



取締役
長坂 英樹

取締役兼CDO
山崎 晴太郎

代表取締役兼CEO
渡邊 大知

専務取締役兼COO
鈴木 浩之

取締役兼CFO
篠崎 史郎

(株式会社セイタロウデザイン代表取締役)

代表取締役CEO

渡邊 大知

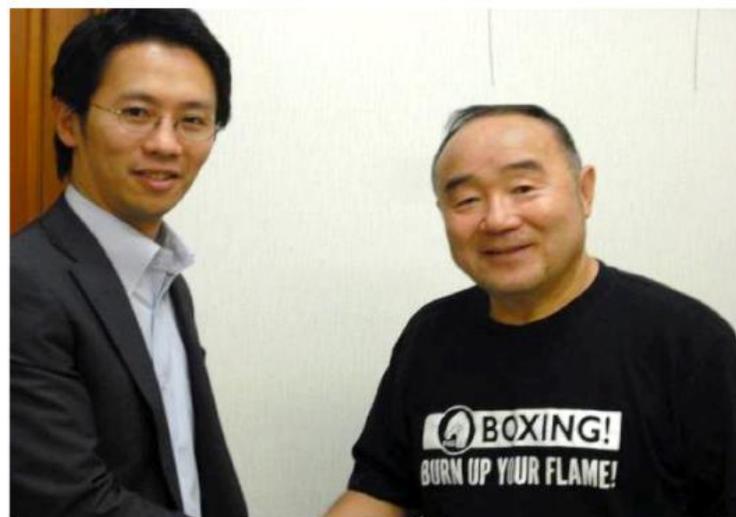
1974年 山梨県生まれ 現在45歳

1992年 甲府第一高等学校卒業

1993年 プロボクシング デビュー

1999年 プロボクシング引退、当社入社

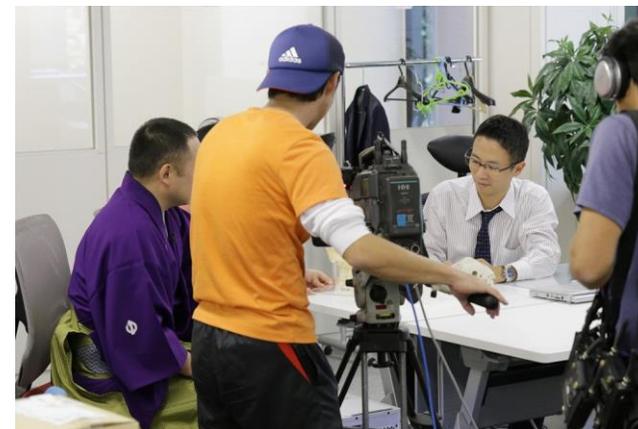
2004年 当社代表取締役就任



3Dプリンターブームによるメディア露出の増加

主なテレビ取材

- 2012年 NHKオンライン
- 2013年 ワールドビジネスサテライト 「特集 町工場」
がちりマンデー
- 2014年 ウッティタウン6丁目
池上彰 解説塾
ZIP !
- 2015年 NEWS JAPAN
- 2016年 ガイアの夜明け
- 2018年 ワールドビジネスサテライト
Newsモーニングサテライト

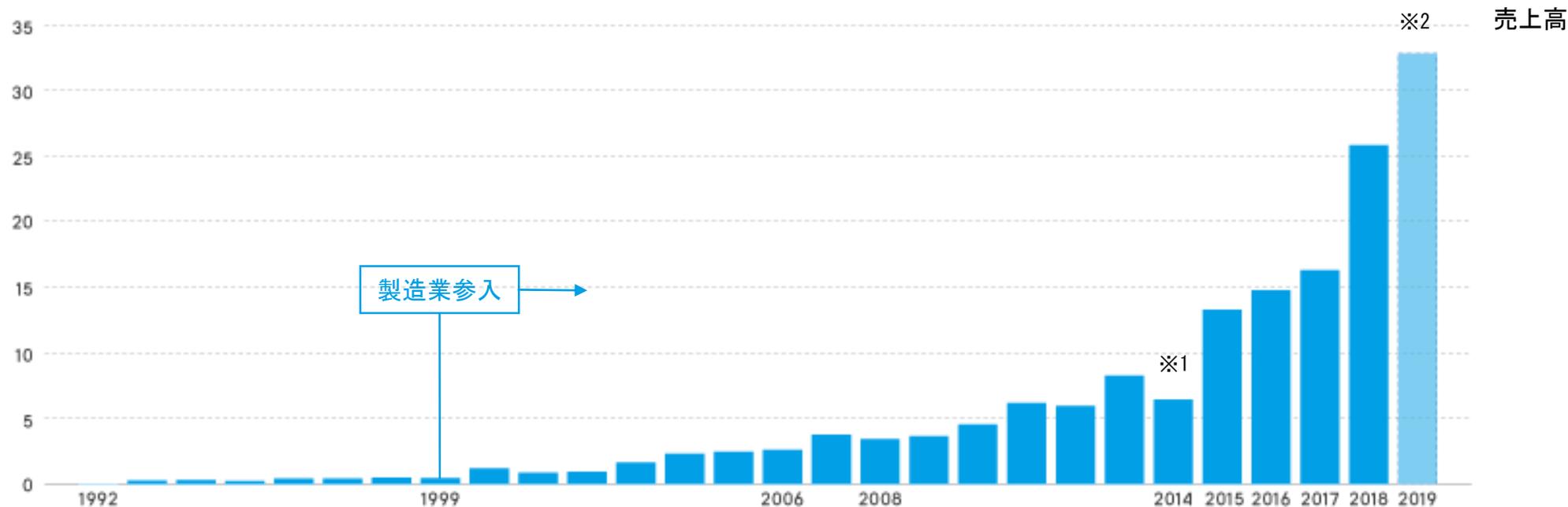


2014年 「新ものづくり研究会」の委員に選出

総理官邸「経済の好循環懇親会」へ出席



(単位=億円)



有限会社 ジエイ・エム・シー 設立

株式会社 ジエイ・エム・シー へ組織変更
3Dプリンター出力事業を開始

有限会社 エス・ケー・イー と合併、
鑄造事業開始

コンセプトセンター(鑄造工場)設立

株式会社 JMC へ商号変更
テクニカルセンター設立
『JISQ9100』取得

東京証券取引所マザーズに株式上場
産業用CT及び関連サービスの販売を開始
『医療機器製造販売』取得
『医療機器製造業』
コンセプトセンター第6期棟棟を増設
浜松市にミールングセンターを設立(予定)

※1 2014年は8ヶ月決算
※2 2019年の売上高は予想



コンセプトセンター
長野県飯田市
(鋳造事業、CT事業)



本社
神奈川県横浜市港北区
(3Dプリンター出力事業、CT事業)



鴨居テクニカルセンター
神奈川県横浜市都筑区
(3Dプリンター出力事業)



ミーリングセンター (2019年11月竣工予定)
静岡県浜松市浜北区
(鋳造事業)



試作・少量量産のプロフェッショナル

株式会社JMCは、試作・小ロット量産の領域に特化して、最先端のものづくりを目指しています。伝統的な職人技とデジタル技術の両者の強みを生かし、製品開発すべてのフェーズに対してお客さまのご要望に応えるサービスを提供すべく、各事業間におけるシナジーを最大限追求しています。

3Dデータ作成

CADモデリング・リバース
エンジニアリング

3Dプリンター

1個から数個までの試作品
量産前の形状確認

砂型鋳造

アルミニウム、マグネシウ
ム合金の少量量産品

検査・測定

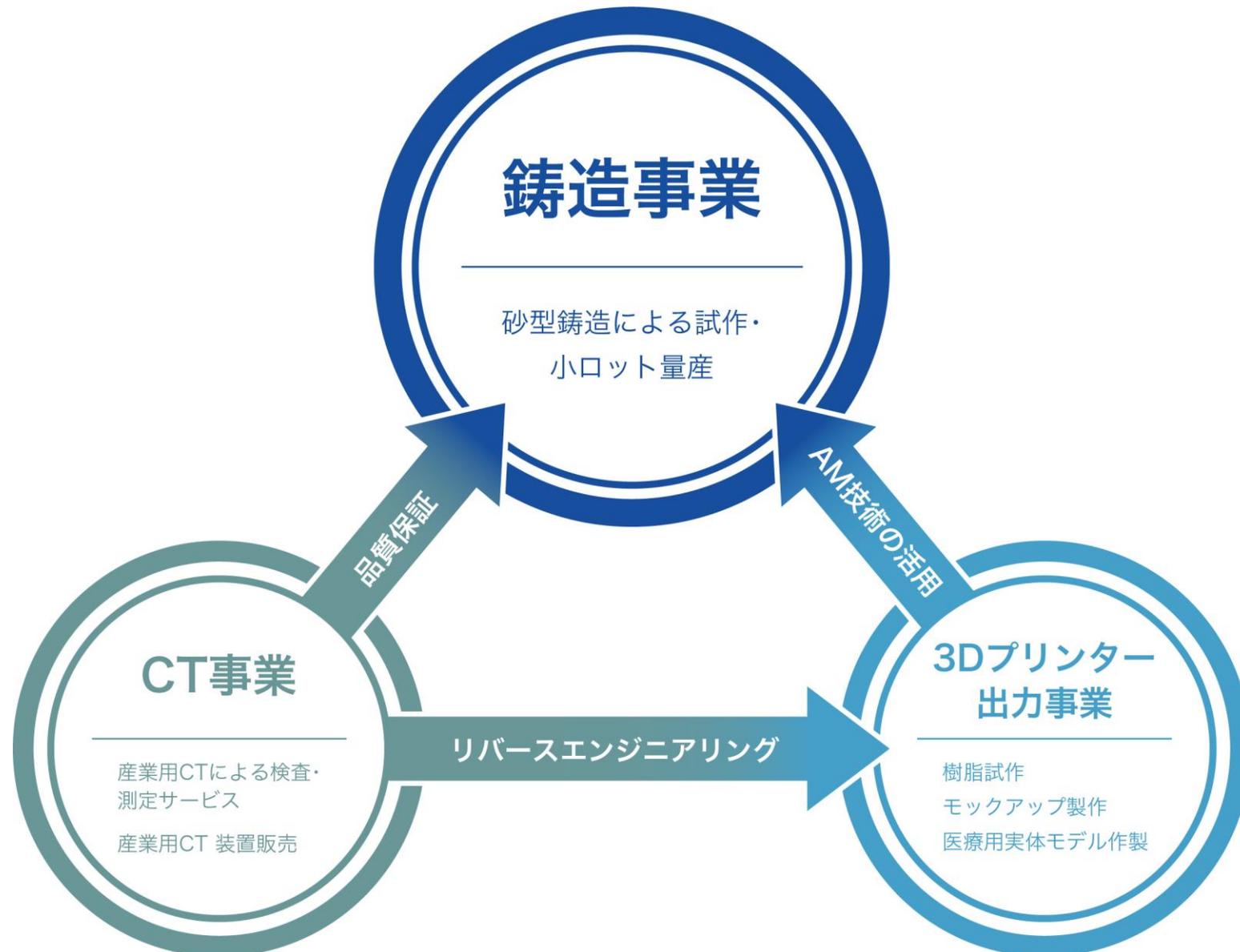
CTスキャン、非接触測定

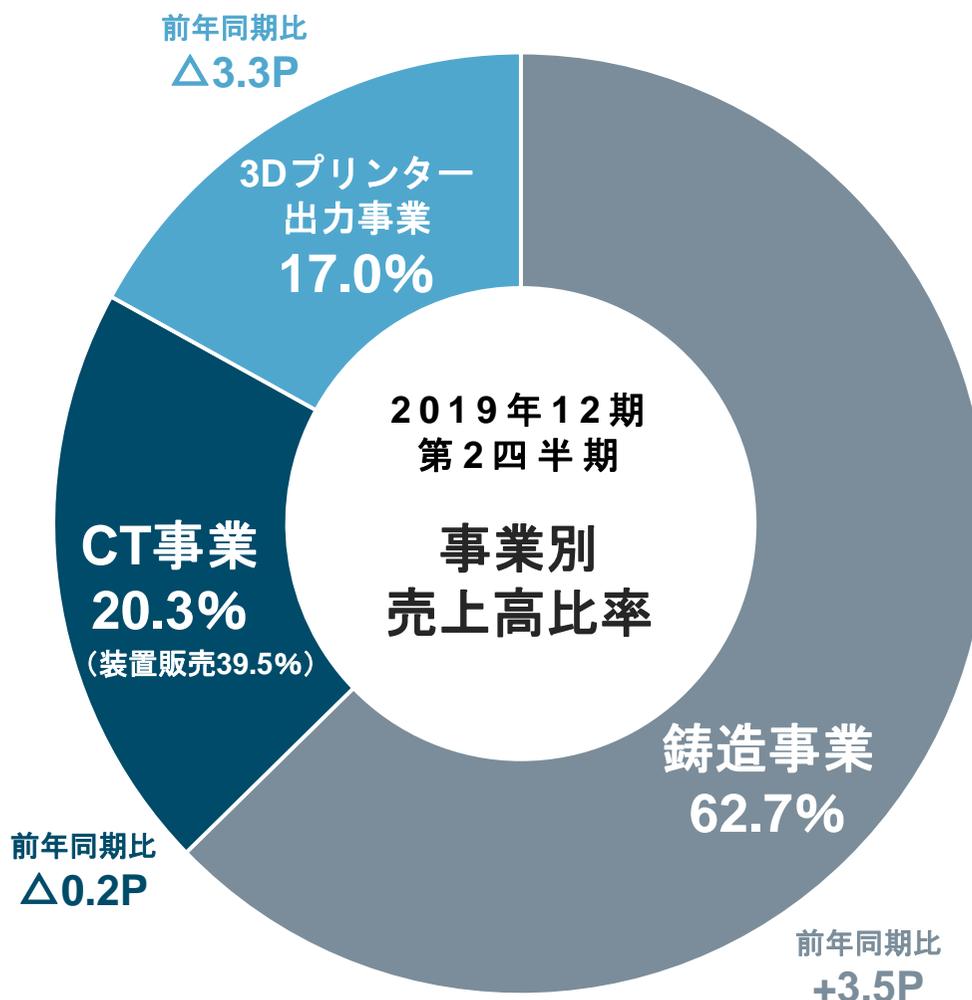
データ作成

試作

少量量産

製造フェーズ





(注) 外部顧客への売上高の比率であります。

3Dプリンター出力事業



大手自動車メーカー



医療機器メーカー



化粧品メーカー



文具・雑貨メーカー

鋳造事業



大手自動車メーカー



産業機器メーカー



船外機メーカー



ロボット開発メーカー

CT事業



大手自動車メーカー



医療機器メーカー



材料メーカー



大学・研究機関

大量生産から適量生産へ



航空宇宙



少量しか作らない

10個～100個

自動車・バイク・産業機器・家電など



量産からパターンオーダー

100個～1,000個

医療



オーダーメイド

1個～10個

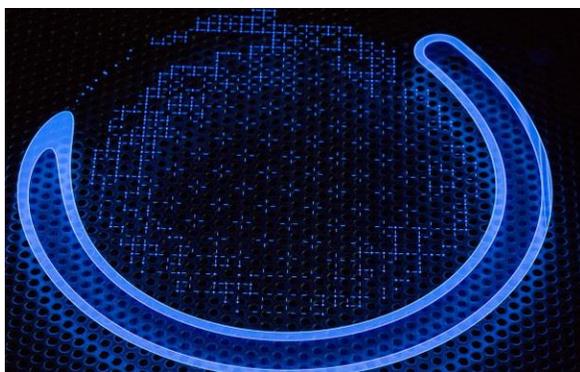


3Dプリンター出力事業について

主に製品開発を行う顧客向けに、機能・形状検証用の試作品を4方式の3Dプリンター15台(光造形方式8台、粉末焼結(ナイロン造形)方式 4台、粉末固着(石膏造形)方式1台、インクジェット方式2台)を駆使し作製しております。

JMCの優位性

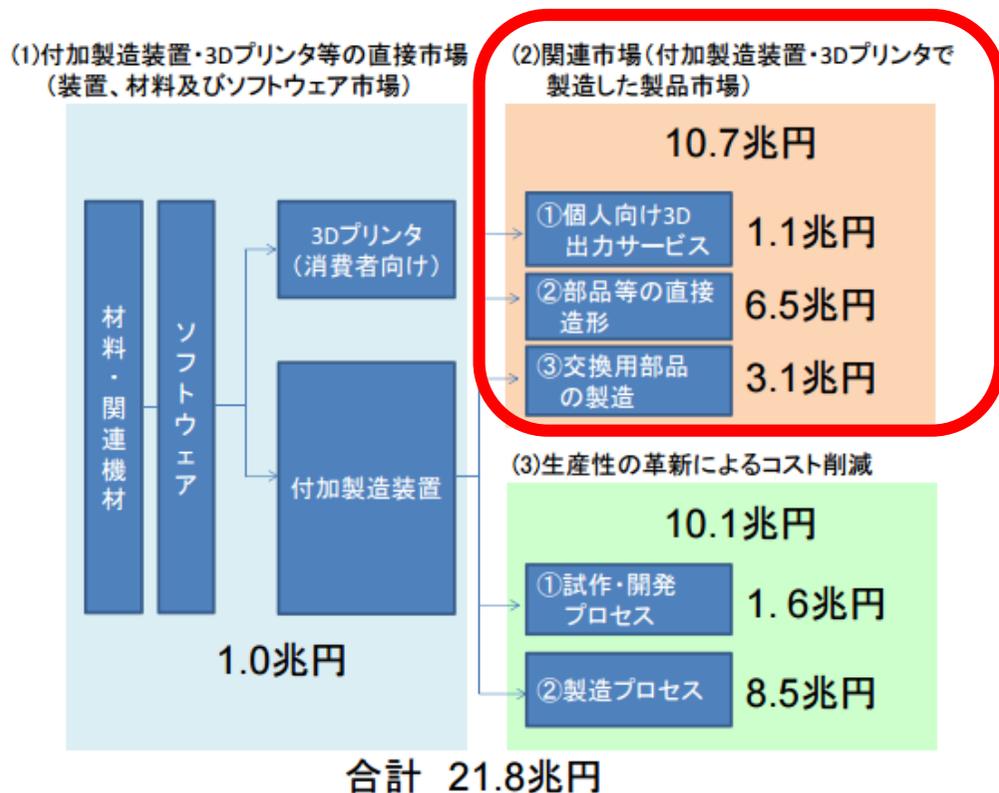
- 1時間以内の見積対応
- 年中無休の稼働体制による迅速な製造
- 独自管理と独自のプログラムによる高精度
- 国内最大規模の3Dプリンターの保有台数





3Dプリンター出力事業 - 市場の拡大

3Dプリンター関連市場は拡大する予測



2020年には付加製造装置・3Dプリンタは広く一般消費者、産業界で用いられるようになり、その経済波及効果は世界全体で合計約21.8兆円に達するものと考えられる。内訳は、付加製造装置・3Dプリンタ等の直接市場で約1.0兆円、関連市場で約10.7兆円、生産性の革新で約10.1兆円となる見込みである。

図表 15 付加製造装置・3Dプリンタによる経済波及効果試算

(出所) 平成26年2月 新ものづくり研究会報告書

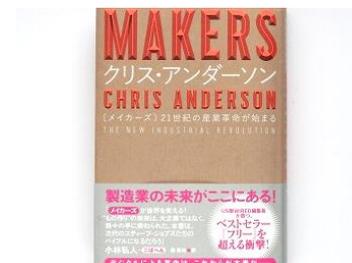
3Dプリンターブームの変遷



2009年
特定の3Dプリント技術の特許が切れる。



2012年
オバマ大統領が米国で3Dプリンターを後押し。



2016年
米ゼネラル・エレクトリック (GE) が欧州の3Dプリンター企業2社を約1450億円で買収。

クリス・アンダーソン著書の「MAKERS」がベストセラーに。



ひとりメーカー



国内最大規模 15台保有

光造形方式	8台
粉末焼結方式	4台
粉末固着方式	1台
インクジェット方式	2台

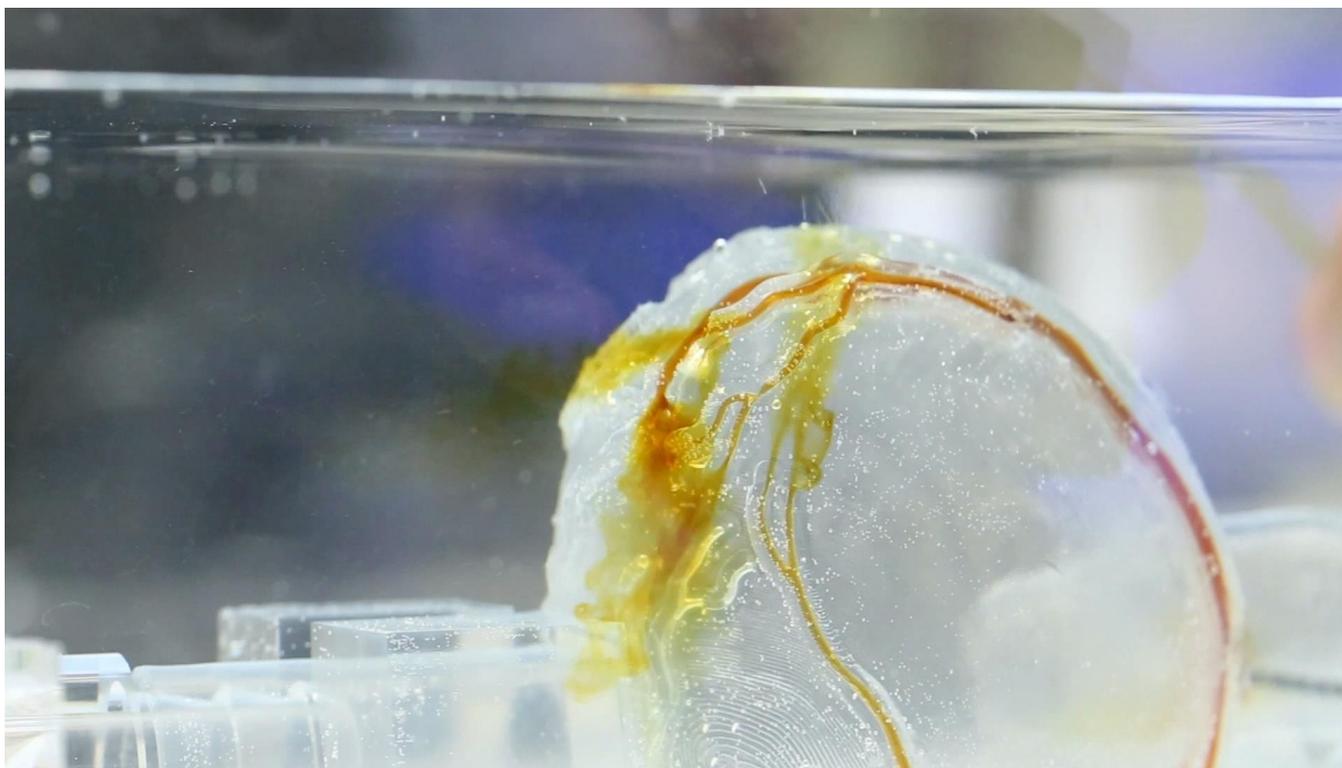
医療現場はCTスキャナ等、3次元データの活用が常識



複雑な形状の造形技術が必要であるからこそ、3Dプリンター出力事業との親和性が高い



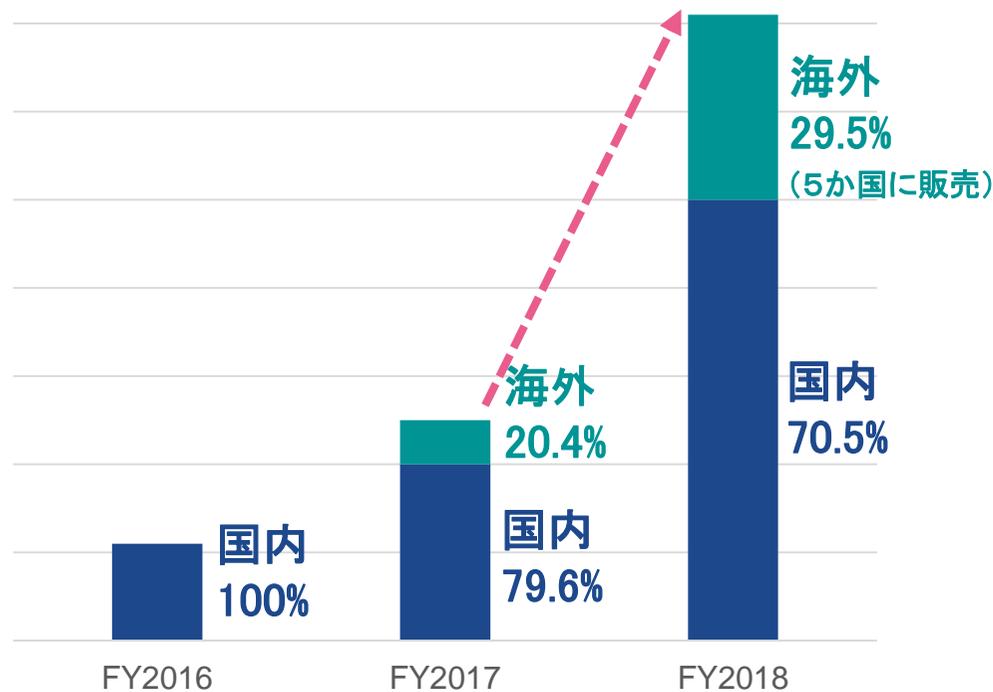
心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID」の販売



「3Dプリンターを駆使した心血管モデルの研究開発」

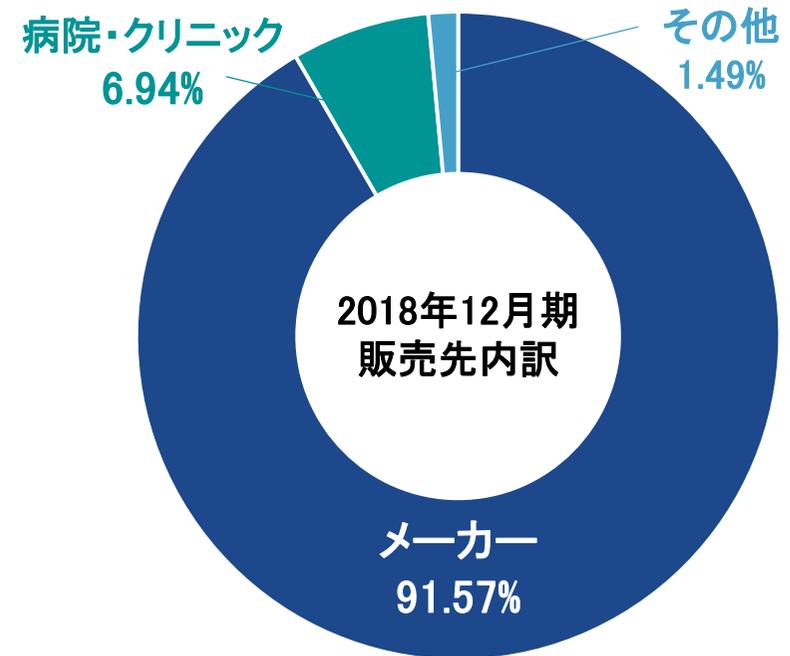
HEARTROID(ハートロイド)の積極的な販促活動によって国内外で売上が拡大

HEARTROID 売上高
184.4%増



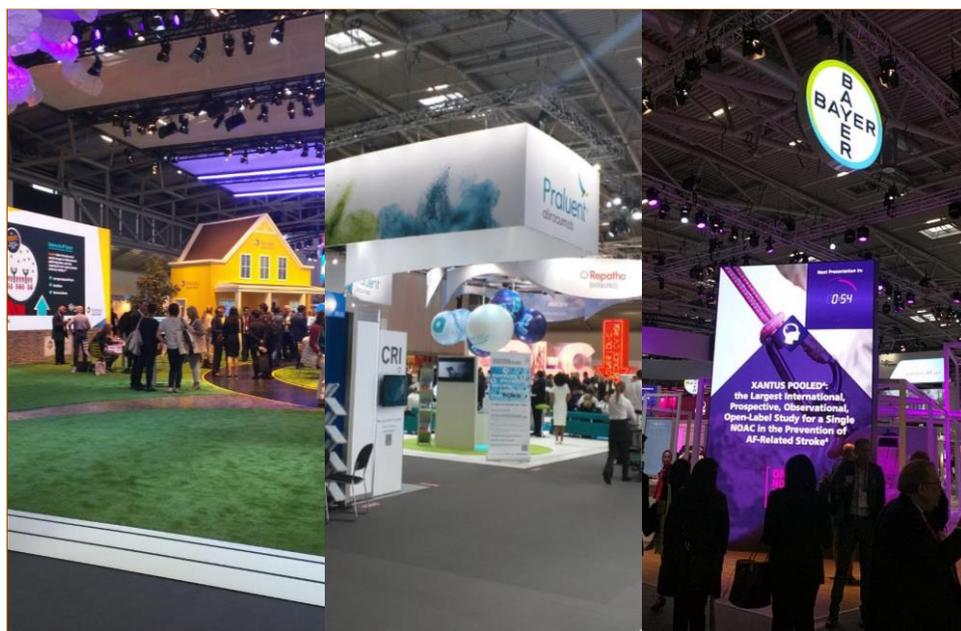
医療機器メーカーを中心に販売が好調

国内外の学会・展示会への出展による販促活動や代理店戦略によって、医療機器メーカーを中心に売上高が大きく拡大。



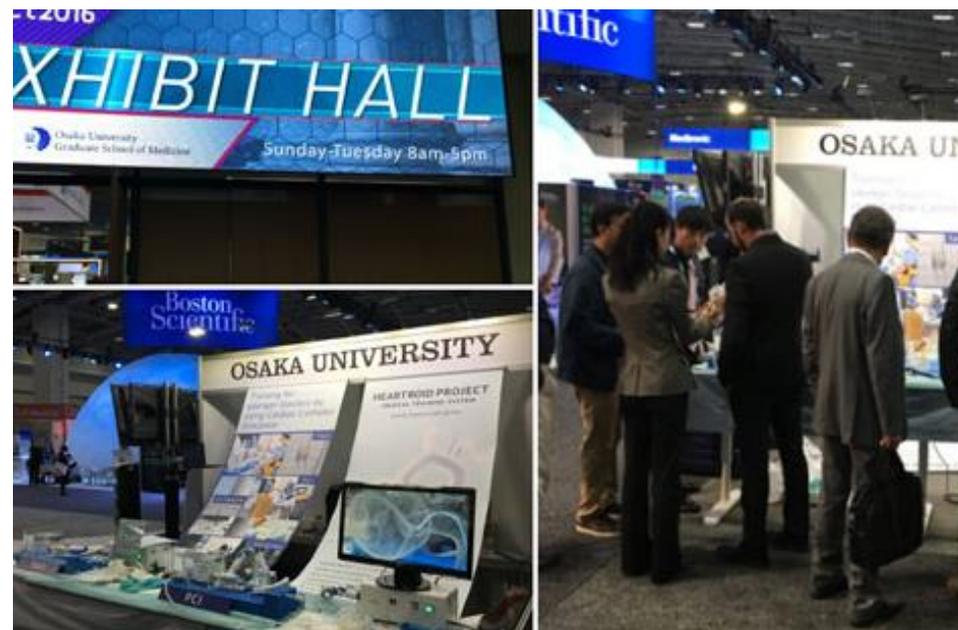
心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID」の販売施策

- 国内外の販売代理店戦略
- 心血管領域に関する世界最大級の学会である「ESC Congress(フランス)」、カテーテル治療に特化した学会である「TCT(アメリカ)」への出展・出品



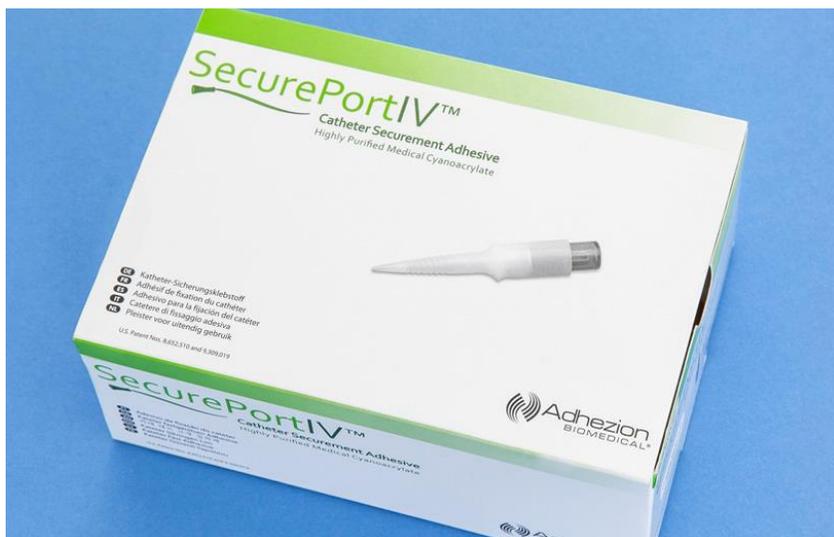
ESC Congress 2019

2019年8月31日～9月4日
パリ / フランス



TCT 2019

2019年9月25日～29日
サンフランシスコ / アメリカ



セキュアポートIV

(医療機器届出番号：14B1X10020000001)

血管留置カテーテル等を人体に挿入した際の刺入部に貼付して使用する本製品は、皮膚表面に接着剤で被膜を作り、血管留置カテーテル等が体動等によって移動することを防ぎ、また血管留置カテーテル等自体も固定できることから、炎症や感染を低減させる効果が期待できます。



OPENCAST (ギプス包帯)

(医療機器届出番号：14B1X10020000002)

骨折、疾患のある関節または疼痛のある捻挫等患部を固定するためのギプス包帯です。従来品に比べて、患者様の快適性や生活の質（QOL）の向上が図れるメリットを備えている製品です。

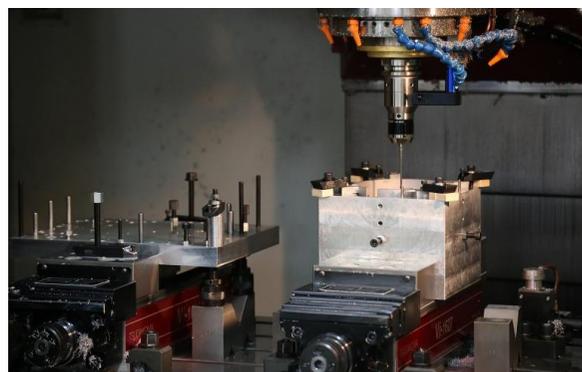


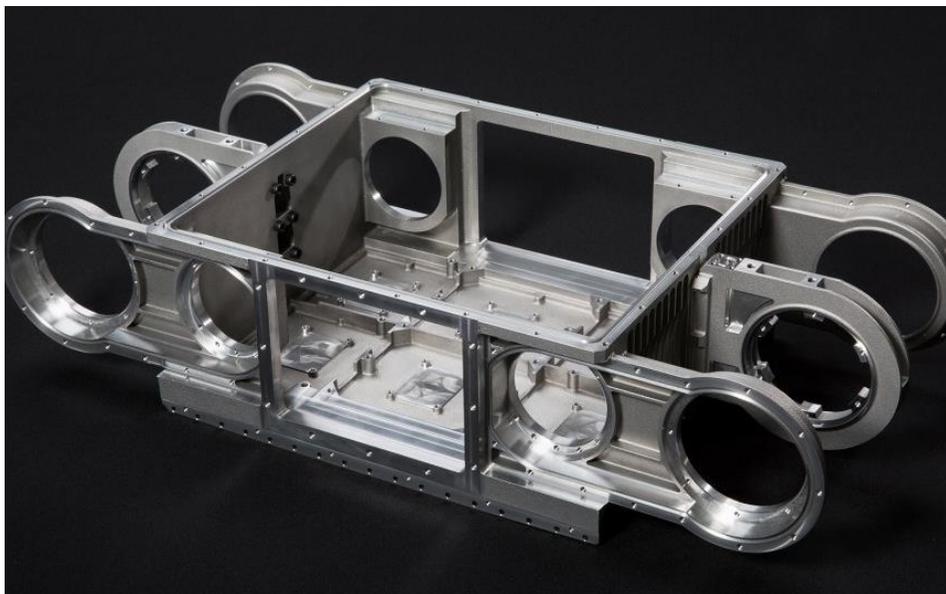
鑄造事業について

3Dプリンター出力事業で培った3次元CADデータのノウハウを活用し、砂型鑄造の工程を、データ作成から検査まで可能な限りデジタル化し、アルミニウム合金及びマグネシウム合金の試作品及び少量量製品の作製を行っております。

JMCの優位性

- デジタル化による育成ノウハウ
- 独自の砂型鑄造による高精度化
- 素材から加工まで一貫した製造工程による短納期の実現
- 多角的な検査手法による品質保証体制

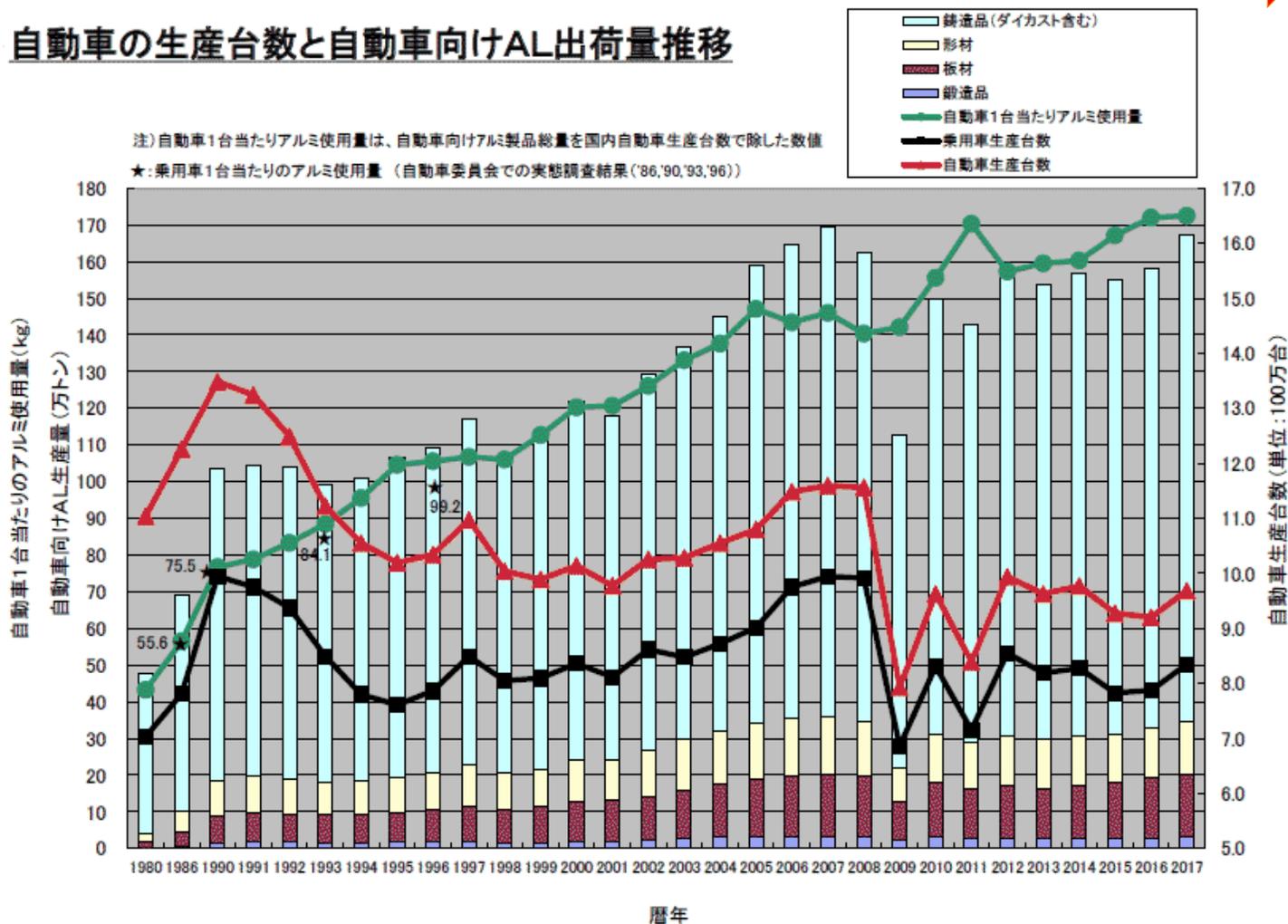




生産台数が減少する一方、アルミニウム鑄造部品は急増

自動車1台当たりのアルミ使用量は30年で3倍以上に増加

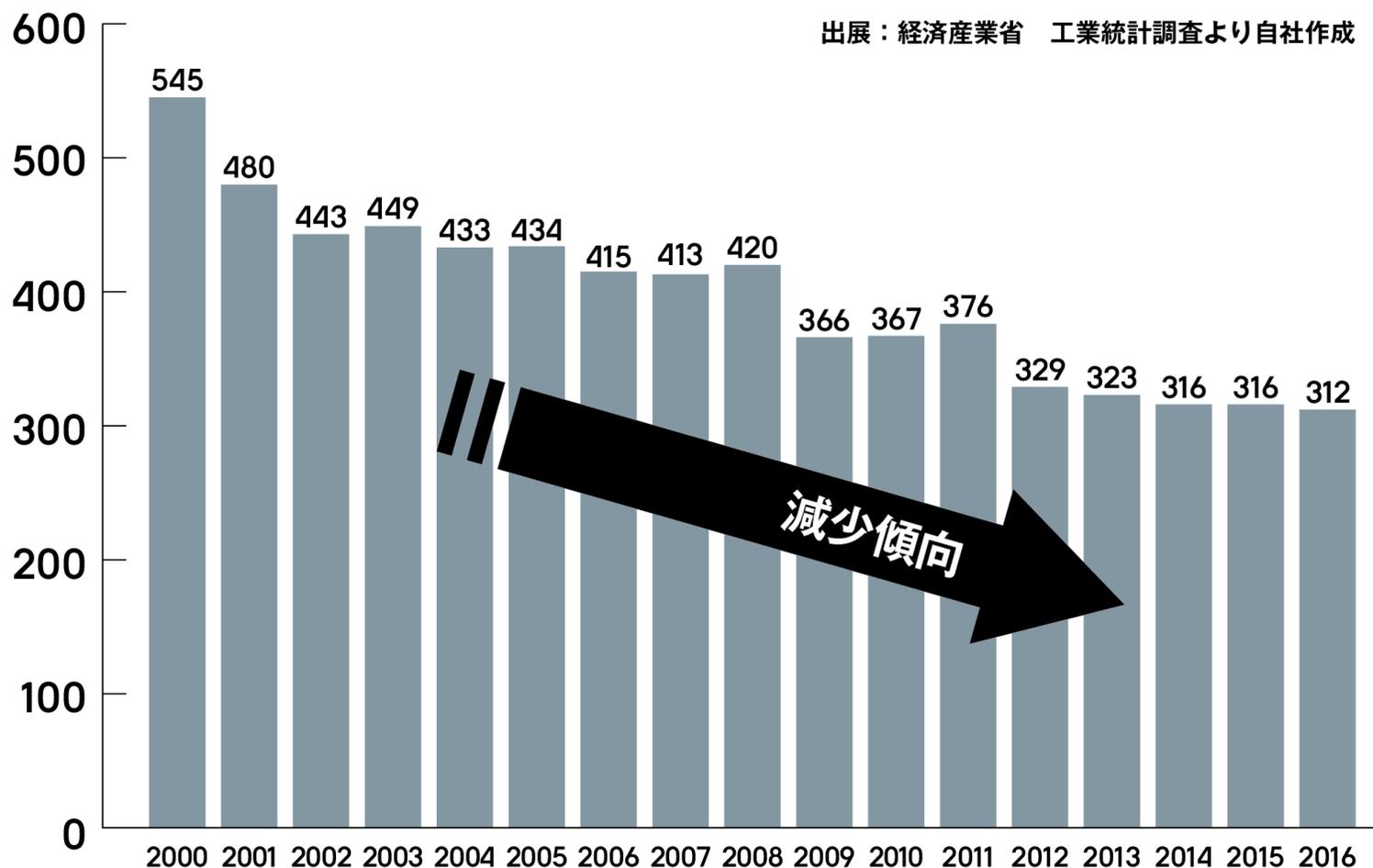
自動車の生産台数と自動車向けAL出荷量推移



出所：(社)日本アルミニウム協会調べ

砂型鑄造製造業者は減少傾向

国内砂型鑄造業者の推移



従業員の年齢構成

職人技術を汎用化(デジタル化)することで人材の有効活用を実現

鑄造事業従事者の
平均年齢

約40歳

JMCの鑄造事業

一貫したデジタル技術の導入に
よって業界では異例の平均年齢

25.1歳

※2018年末時点



2018年に鑄造工程を強化するコンセプトセンター第5期棟稼働

- 鑄造工程における1日の生産能力最大で約1.4倍(当社前期比)



新鑄造棟



低圧鑄造設備



溶解炉



アーム式非接触測定機

2019年8月に高付加価値製品の製造に特化した コンセプトセンター第6期棟稼働

- 砂型3Dプリンターをはじめとする新たな設備を導入
- 自動車部品メーカーに対して砂型3Dプリントサービスを提供開始



新鑄造棟(右)



砂型3Dプリンター

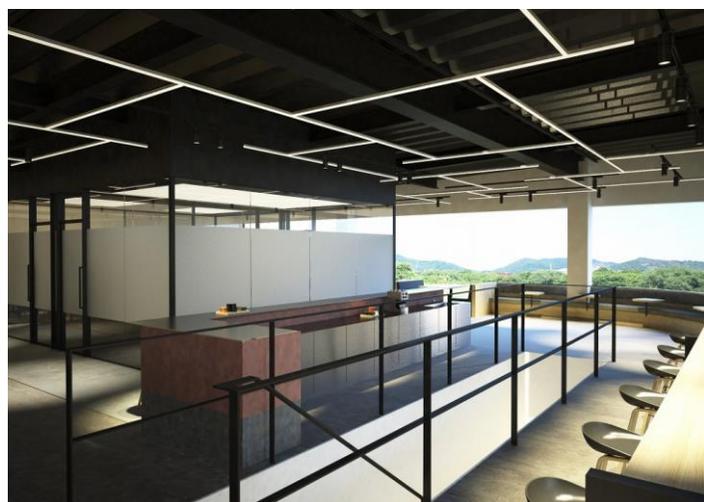


低圧鑄造設備

鑄造事業の加工工程の新工場を静岡県浜松市浜北区に建設中

加工工程の内製化によって、納期短縮と品質向上を追求し、技術的難易度の高い案件のニーズに対応することによって受注増加を目指します。

- (1) 名称 ミーリングセンター
- (2) 所在地 静岡県浜松市浜北区
- (3) 延床面積 約1,606.29㎡
- (4) 稼働予定 2020年1月



完成イメージ画像



CT事業概要

JMCは産業用CTを使用し、お客さまからご支給頂いた試料を検査・測定するサービスを行っています。

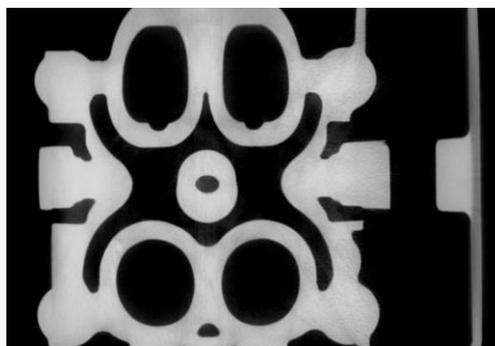
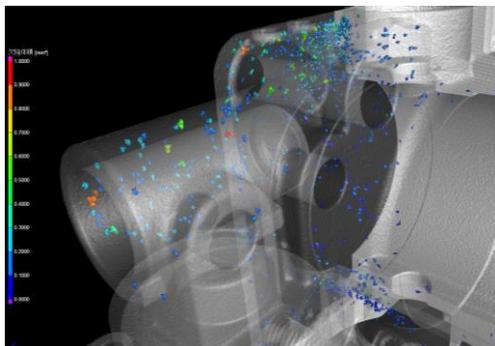
ハイエンド産業用CTによる短納期・高品質の撮影を特徴としています。

JMCの優位性

- 国内最大規模の装置保有台数
- 装置の販売代理店であること
- 他事業で培ったものづくりのノウハウ
- マーケットリーダーとしての立ち位置

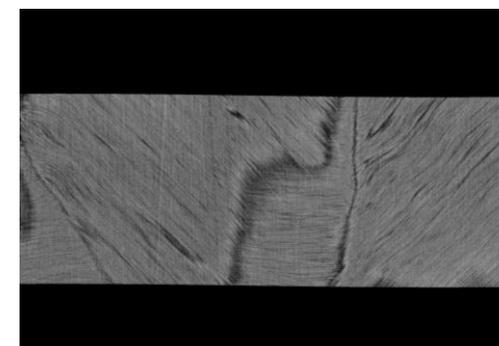
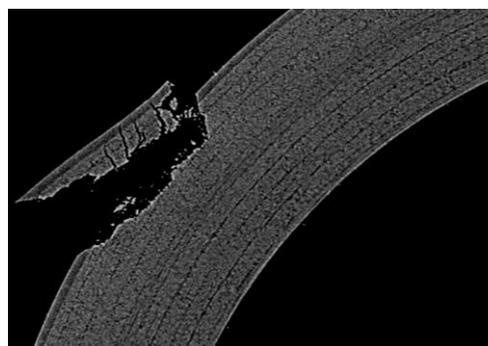


鋳物の欠陥検出



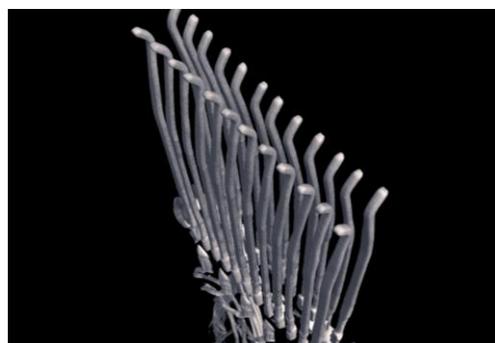
▲ 鋳巣の発生傾向をボリューム解析で可視化

CFRPの繊維の観察



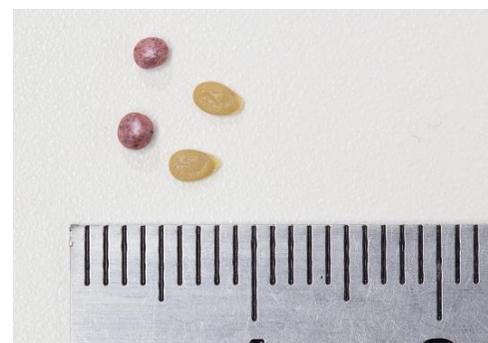
▲ 繊維の流れ、破断の様子を観察

不具合品の原因究明

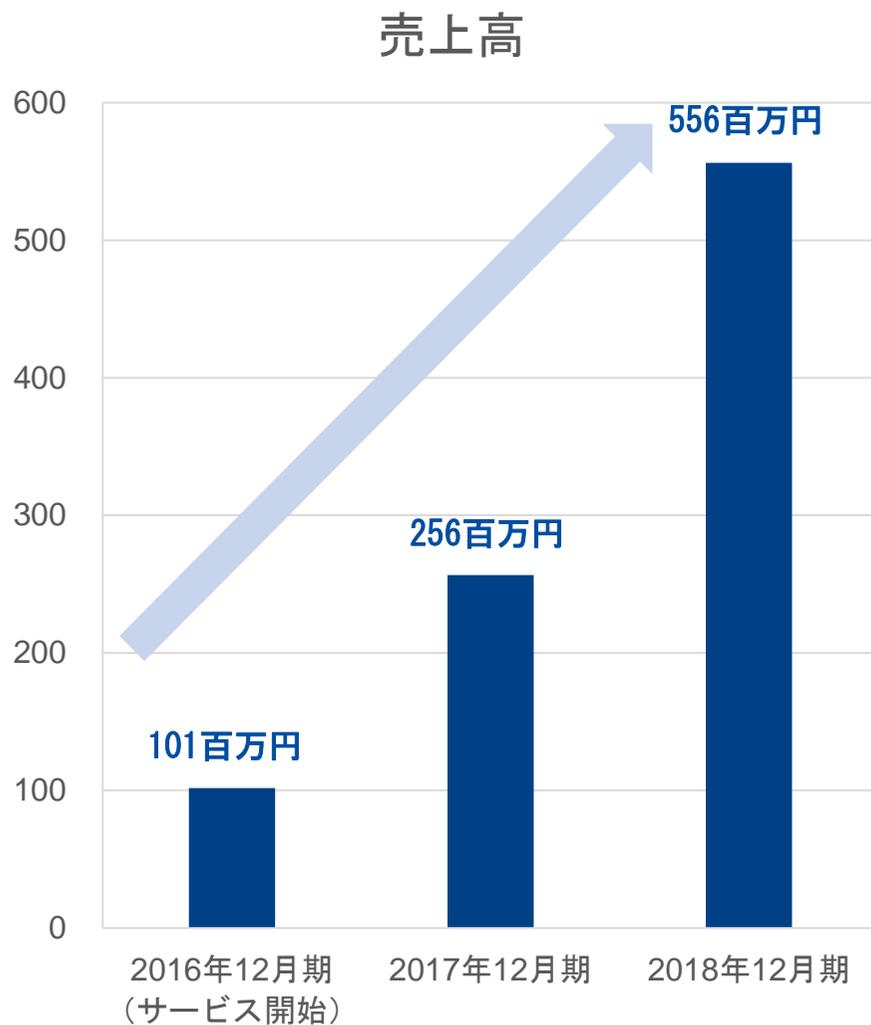


▲ 原因不明の不具合があったコネクタ部品の検査

植物の構造の観察



▲ 種子の内部構造を観察



売上高

CT事業の飛躍的な成長

2016年のサービス開始から市場開拓を進め、昨年度は3Dプリンター出力事業を超える売上高を実現

当期の重点実行施策

- マーケット・リーダーとして市場規模拡大を推進
 - 展示会出展や、自社開催のセミナーによる技術普及、市場形成
- 設備増強によるフルラインナップ化で日本最大級の撮像能力



単位：百万円	2018年12月期 第2四半期	2019年12月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	1,271	1,624	+353	+27.8%
売上総利益	468	726	+258	+55.2%
売上総利益率	36.8%	44.7%	-	+7.9P
販売管理費	303	416	+113	+37.3%
営業利益	164	310	+145	+88.2%
営業利益率	13.0%	19.1%	-	+6.1P
経常利益	169	308	+139	+82.2%
経常利益率	13.3%	19.0%	-	+5.7P
四半期純利益	111	207	+96	+86.5%

試作・開発市場における好調な市場環境のなかで、当社の強みである「短納期」、「高品質」を訴求した営業活動、製造活動を展開し、業績は堅調に推移しました。また大型化、複雑化する顧客ニーズに対応し、高付加価値案件の受注を多く獲得し、鑄造事業が全社業績を牽引しました。

中期経営計画 2019年-2021年

株式会社 J M C

JMC

MADE BY JMC

PHILOSOPHY

MADE BY JMC

「made in JAPAN」というブランドが
世界に浸透したのは、いつからだろうか。
そのクオリティとサービスの高さが理解されるまで、
どれほどの努力、どれほどの苦勞、
どれほどの挑戦がなされてきたのだろうか。
彼らと同じ情熱、彼らを越える発想がなければ、
次の時代に勝ち残ることはできない。
さあ、今こそ先人達が切り拓いてきた道を越えて、
ものづくりの新たな地平を目指そう。
私たちだけのやり方で。

VISION

ものづくりに知性を。

既存のものづくりの枠組みに縛られない。
あらゆる工法、あらゆる素材を組み合わせ、
もっと自由に、もっと大胆に、
新しいものを生み出していく。
道導となるのは、目的を正しく見極め、
課題を的確に抽出し、最先端のものづくりを
していくための知性だ。
つくりたいもの、やりたいこと、
そのすべてを実現できる最強のサプライヤーへ。

5つの JMC PROMISE

- 1** すべては、
最高の製品のために。
- 2** ハイクオリティを、
ハイスピードで。
- 3** 製造業に、サービス業の
サービスレベルを。
- 4** 世の中になれば、
自らやる。
- 5** 出来ない理由より、出来る方法を探す。

基本方針

市場の特定と実行

- 試作・開発市場において国内外の自動車メーカーから案件を獲得。
- 航空市場での安定的な受注獲得を目指す。
- 先進国から新興国へ幅広く事業展開(HEARTROID)。

時短と品質の両立

- 相反する二つの価値を両立することで市場のニーズに対応、開発パートナーとしての立場を確立する。

さらなる成長への 基盤固め

- 中期経営計画2019-2021年を実現することで、利益率を高めるとともに成長に向けた投資を継続し、JMCブランドを確立する。

達成目標年度：2021年(2021年12月期)

目 標：売上高 5,200百万円以上 / 営業利益 780百万円以上

目標項目	2021年12月期目標	対 2018年12月期比
売上高	5,200百万円以上	201.4%
営業利益	780百万円以上	236.7%
営業利益率	15.0%以上	+2.2pt

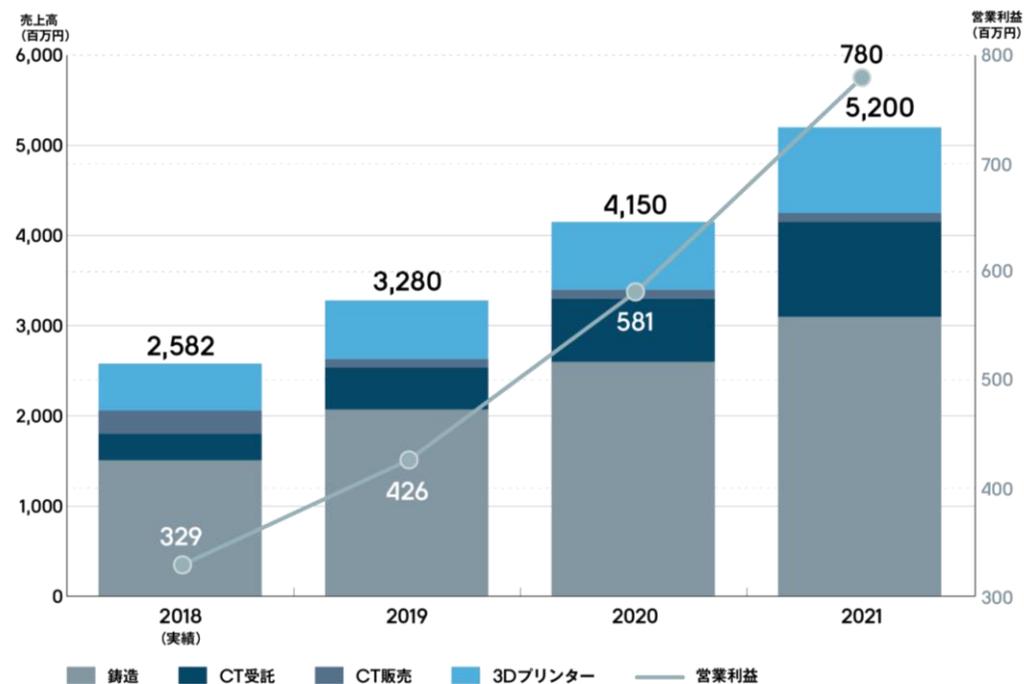
● 2019年12月期 経営目標(対前期比)

売上高 3,280百万円 (27.0% 増)

営業利益 426百万円 (29.3% 増)

営業利益率 13.0% (+0.2pt)

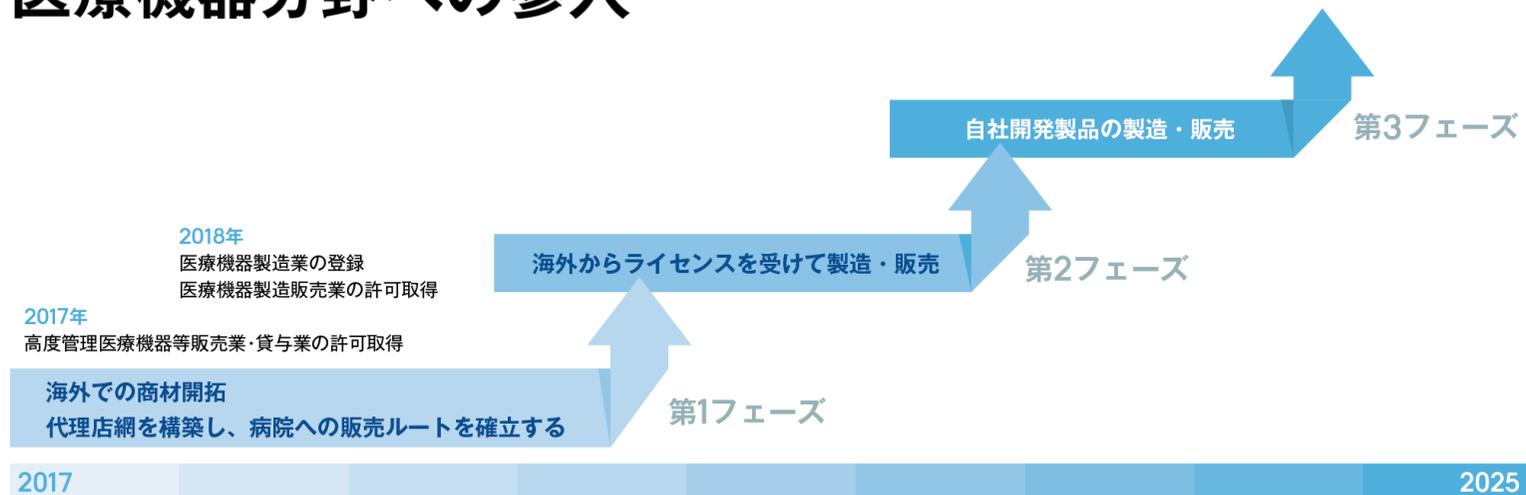
中期経営計画 売上高・営業利益の推移



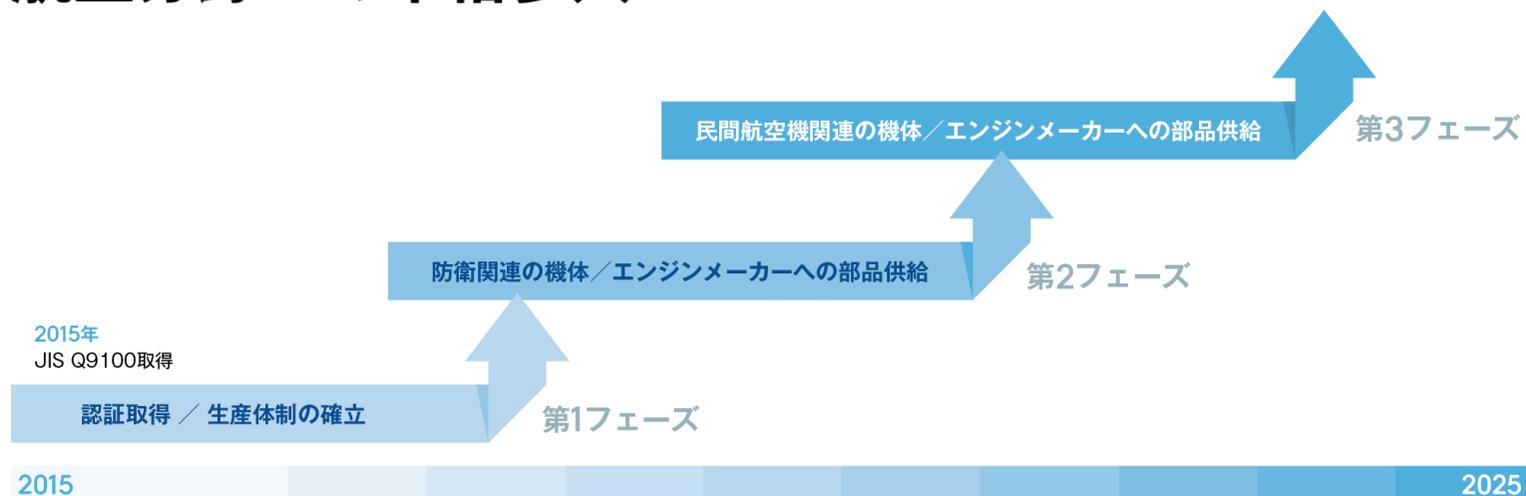
		2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期		2021年12月期	
		実績	対前年比	目標	対前年比	目標	対前年比	目標	対前年比
売上高	鑄造	1,508	57.3%	2,072	37.3%	2,600	25.5%	3,100	19.2%
	CT受託	295	15.0%	466	57.9%	700	50.2%	1,050	50.0%
	CT販売	258	—	92	-64.4%	100	8.7%	100	0.0%
	3DP	519	25.7%	650	25.0%	750	15.4%	950	26.7%
	合計	2,582	58.5%	3,280	27.0%	4,150	26.5%	5,200	25.3%
営業利益		329	—	426	29.3%	581	36.4%	780	34.3%
営業利益率		12.8%		13.0%		14.0%		15.0%	

※売上高は外部顧客への売上高であります。

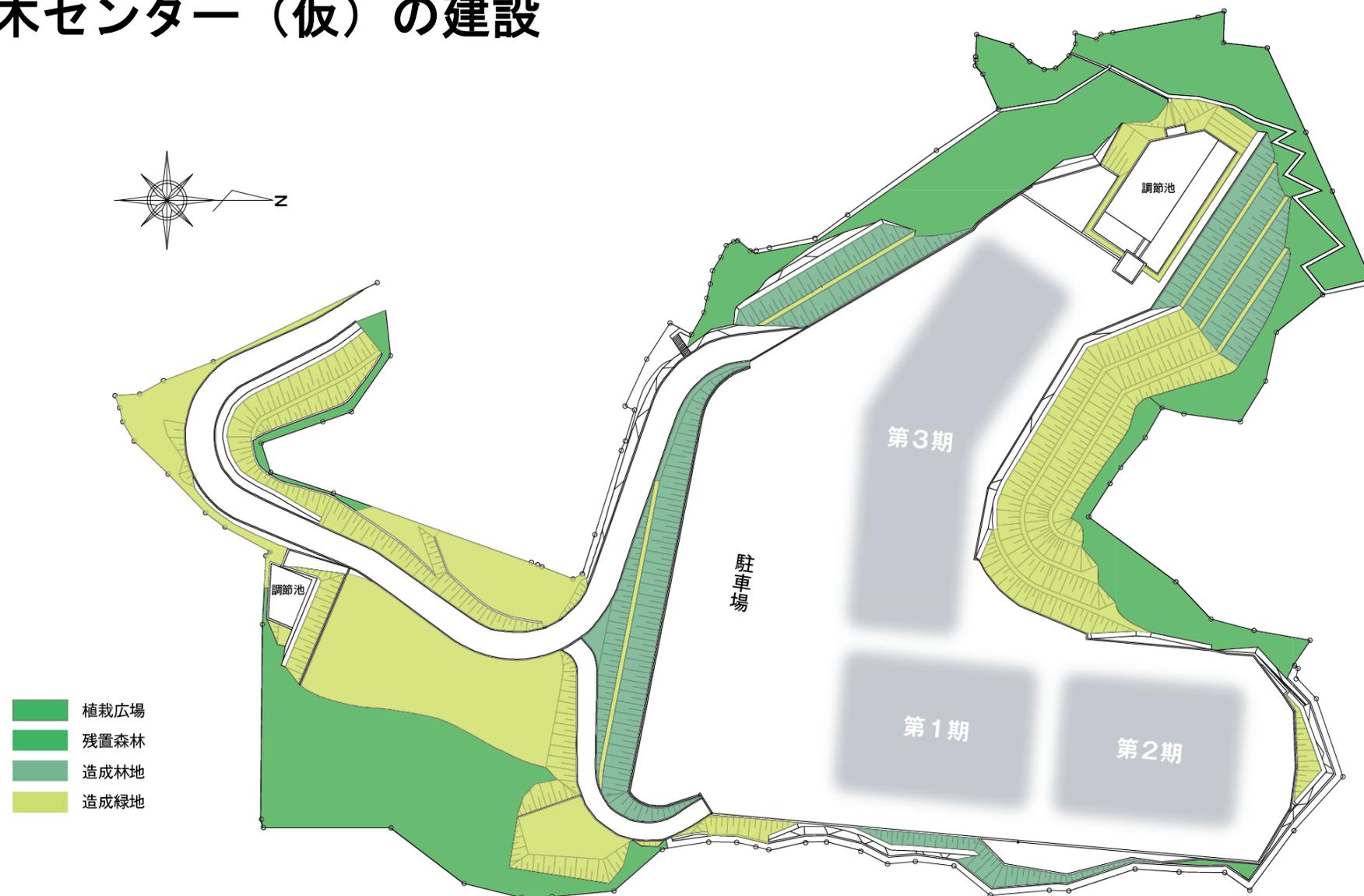
医療機器分野への参入



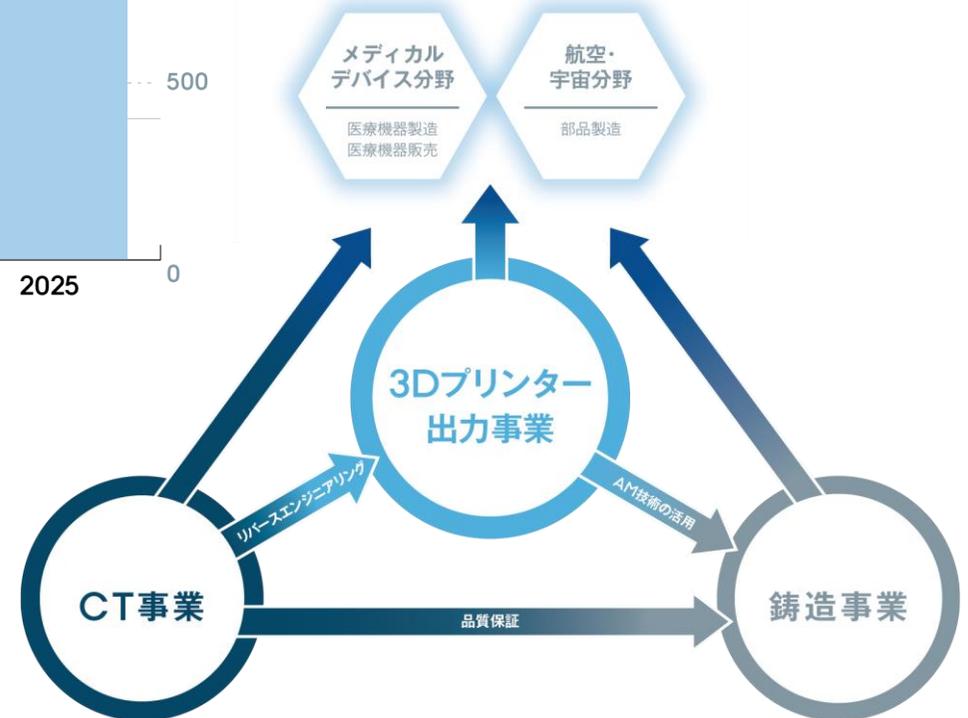
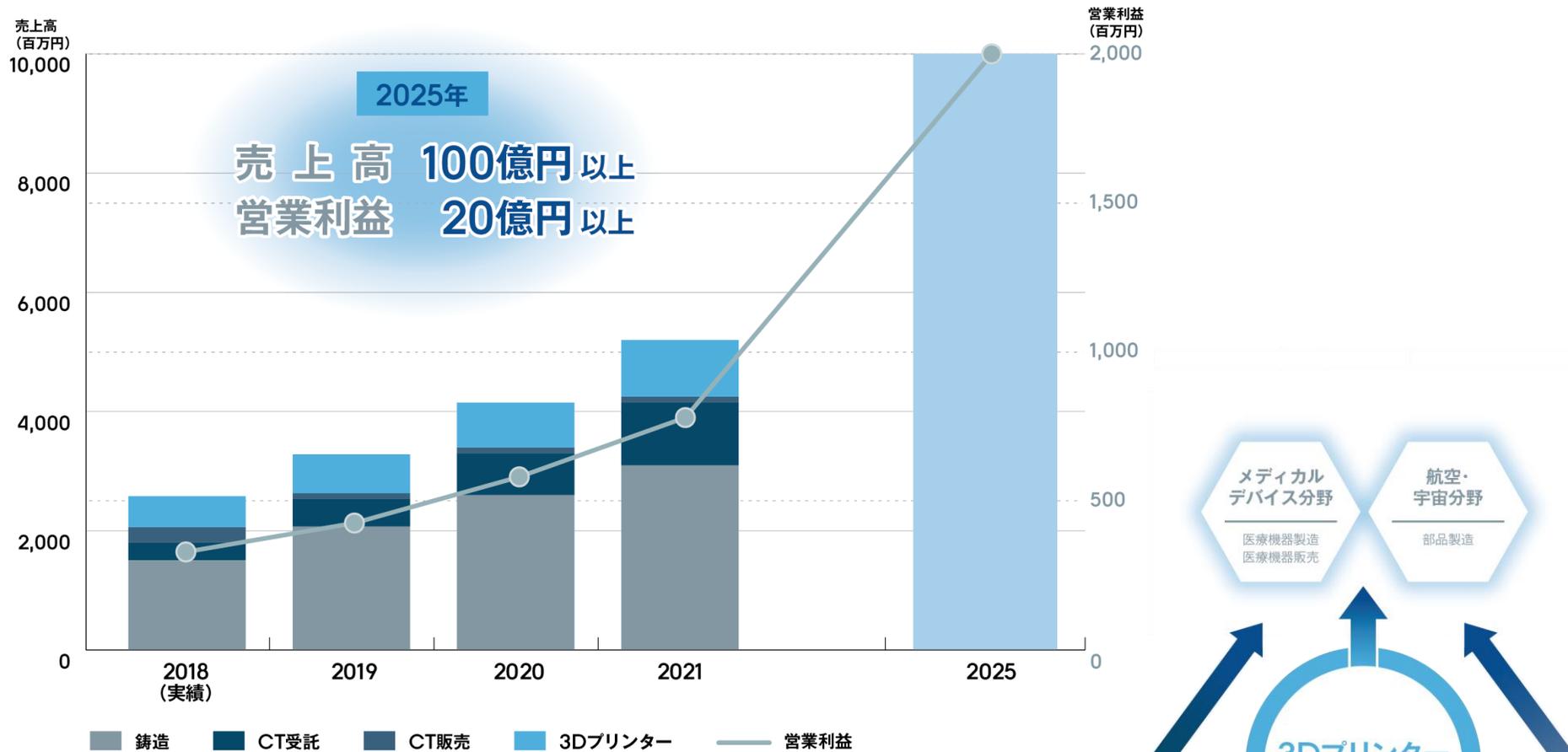
航空分野への本格参入



伊豆木センター（仮）の建設



2025年へのビジョン



配当政策・株主優待

当社は、経営成績及び財務状態を勘案しながら、株主への利益配当を実現することを基本方針としております。

しかしながら、現在は内部留保の充実及び業容拡大のため設備投資を優先して無配としております。

将来的には利益配当を目指していく方針ではありますが、配当実施の可能性及びその実施時期等については、現時点で未定であります。

同様に株主優待も、可能性及びその実施時期等については、現時点で未定であります。

株価対策

株価は株式市場が決定するものであり、当社の株価対策として株式市場に介入することはありません。

なお、当社が業績を伸長させ、企業価値を高めることが株価に反映するものと認識しております。

本説明会および説明資料の内容は、発表日時点で入手可能な情報や判断に基づくものです。

将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本説明会および説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。

◆本件に関するご連絡先◆

株式会社 J M C 経営企画室 I R 担当

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 5 号

電話番号 : 045-477-5751 E-mail : ir@jmc-rp.co.jp